

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年11月7日

【評価実施概要】

事業所番号	1070201015
法人名	医療法人社団醫光会
事業所名	グループホーム うさぎ
所在地	群馬県高崎市上豊岡町896-2 (電話) 027-340-7220

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5 コミューン100- 1-B
訪問調査日	平成20年10月22日

【情報提供票より】(平成20年8月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年2月1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6.7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有() 円	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	90 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月8日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	4名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 88歳	最低	79歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	はぎわら内科医院、ひろかみ歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人内の他施設とも連携しながら行事や体制面での運営が行われているホームである。職員間の情報の共有や意思疎通もスムーズに行われており、利用者の支援に生かされている。利用者への支援は機械的なものではなく、一人ひとりのその場に応じた支援を重視したいという管理者の思いを、職員と一緒に日々のサービスで実践していこうという姿勢がうかがわれる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価については職員に報告され、地域との付き合い、市町村とのかかわり、日常的な外出支援、鍵を掛けないケアはこれまでの実践を踏まえ改善された。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今年度も管理者が中心となって自己評価を作成した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には、ホーム職員・行政関係者・地区役員の他に、近隣住民や利用者・家族も毎回参加している。ホームでの活動状況の報告の他に、参加者同志での活発な質問も含めた意見交換がされており、相互の理解が深まっている。出された意見は運営に生かされており、今後もホームの抱えている課題を提議することで運営に生かしていくことが期待される。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からの意見や苦情は、面会の際に生活の様子を伝えながら聞くようにしているが、要望や意見が出しやすいように、事務所の前に用紙を設置し、自由に記載してもらっている。運営推進会議の中で活発な意見交換もされており、出された事項は運営に生かしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>法人が主体で行う行事には地域との連携も行われているため、今後はホーム独自でも、近隣住民との気軽な交流を深めていきたいと考えている。現在は、運営推進会議に参加してもらったり、お花やお茶を教えに来所してもらっている。小学校の運動会にも参観に出かけている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	2年前に、従来から掲げていた理念を利用者や職員にとって分かりやすい表現に作り直した。地域での生活を念頭に、利用者の尊厳を大切にしていける支援を目指しており、玄関をはじめ館内数箇所に掲示してある。	<input type="checkbox"/>	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に沿った対応を心がけるよう、申送りや会議では情報の共有や個々の対応について具体的に伝えるようにしている。	<input type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治体活動への参加は今後の課題としているが、小学校の行事を見に行ったり、お茶やお花を地域の方に教えてもらったりはしている。これからも気軽な交流を深めていきたいと考えている。	<input type="checkbox"/>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果は職員に報告し改善できることから取り組んでいる。自己評価については、職員全体での取組まではない。	○	職員が自己評価に取り組むことで、業務の見直しにもつながり、改善や気づきのきっかけになると思われるため、何らかの方法で関わられるように工夫してみてもどうか。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政担当者や地域の役員だけではなく近隣住民や利用者・家族も参加して、運営推進会議を開催している。ホームの生活状況を報告したり、参加者同士の質問や意見交換が行われている。	<input type="checkbox"/>	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者との関わりは、法人担当者が中心に働きかけているが、現場としてすぐに必要なことは、ホームが直接連絡をとるようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活状況や変化に対しては、電話や面会時に具体的に伝えるようにしている。月に1度『うさぎ新聞』を発行し、ホームの様子を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等が出しやすいように、事務所前に用紙を設置し記入してもらうようにしている。運営推進会議にも参加してもらっているので出された意見は運営に生かすようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	このところ職員の異動はほとんどない。ホームでの生活は利用者・家族・職員のつながりで作り上げるものなので、異動等も支障が無いよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催で年に2～3回勉強会を開催している。最近では接遇や感染についての勉強会を行っている。法人外の研修会も自由参加で進めている。グループホームの研究発表会には担当者を決めて、毎年発表している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にもグループホームが数箇所あり、お互いに見学や体験などは行っている。そのほか個人レベルでの連携も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームが利用者本人にとって居心地の良い場所であるかどうかを見極めてもらうために、見学や体験を実施したうえでサービス利用開始としている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から教えていただいた知識を生かすよう心がけている。1対1の関わりを大切に関係作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	機械的な介護ではなく、その人のその場の思いを重視した支援が出来るコミュニケーションに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネジャーが中心になって職員会議や日々の報告を基に、家族の要望も確認しながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しの他にも、利用者の状態に応じて随時計画は作成している。また、月に1度はモニタリングも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の意向に応じて、法人が行っている他施設のリハビリを利用したり、希望に沿った病院利用等を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携は出来ており、月に1度は往診体制を組んでいる。通院は原則、家族に対応してもらっているが、緊急時等はホームで対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の方針については利用開始の際に話し合いホームの指針も説明し、サインをもらっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を大切にしたいという理念を踏まえ、プライバシーを損ねないよう個人情報等の取り扱いも配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状況に応じた支援を心がけている。声掛けと同時に見守りによる支援も大切に考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者には気分や体調を見ながら配膳や盛り付け、片付けもお願いしている。職員も一緒に食事をとりながら会話を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は月曜日と木曜日としている。職員の体制があり、見守り程度の利用者には、夜間以外は入浴に応じている。	○	ホームとしても今後の課題に掲げており、検討を期待したい。他のホームの状況等も参考にして、改善につなげていただきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の盛り付けや片付け、裁縫や洗濯たたみなどその人の意欲や体力にあった楽しみや役割が見出せるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に日光浴や散歩を実施している。希望に応じて戸外に出る支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中10時～15時ないし16時頃までは玄関の鍵は使用していない。危険察知のためにドアにはブザーを設置している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、5月と10月に昼と夜を想定した避難訓練を実施し、記録に残している。法人で地域への協力を依頼しているため、ホーム独自ではしていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量は1ヶ月の状況が解るような表にチェックされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高い天井と自然な光が差し込む館内は、清潔で温かな環境になっている。ホールに季節感のある作品が掲示されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や利用者が居心地良く過ごせるよう、好みに応じた居室づくりがされている。		